

隔離ほ場での情報収集を不要とし得る遺伝子組換えトウモロコシの第一種使用規程の申請に係る事前相談について
(報告)

農林水産省消費・安全局農産安全管理課
環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室

以下の遺伝子組換えトウモロコシについて、「農林水産大臣がその生産又は流通を所管する遺伝子組換え植物に係る第一種使用規程の承認の申請について」(平成19年12月10日付け19消安第8999号、環自野発第071210001号農林水産省消費・安全局長、農林水産省農林水産技術会議事務局長、林野庁長官、環境省自然環境局長通知)第3の(6)に規定される隔離ほ場での情報収集(隔離ほ場試験)は不要と判断したことから、その旨をご報告する。

	農作物分科会にてご意見をいただいた日	相談のあった案件の形質(核酸)	過去に評価した核酸の中で、判断の参考にしたもの	申請予定者名
1	平成28年6月23日	害虫抵抗性 (<i>ecry3.1Ab</i> 、 <i>mcry3A</i>)	<i>ecry3.1Ab</i> 、 <i>mcry3A</i> (改変 <i>cry3Aa2</i>)	シンジェンタジャパン株式会社
		除草剤耐性 (<i>pat</i>)	<i>pat</i>	

(参考)

「農林水産大臣がその生産又は流通を所管する遺伝子組換え植物に係る第一種使用規程の承認の申請について」(平成19年12月10日付け19消安第8999号、環自野発第071210001号農林水産省消費・安全局長、農林水産省農林水産技術会議事務局長、林野庁長官、環境省自然環境局長通知)(最終改正：平成26年12月5日) <該当部分抜粋>

(6) 隔離ほ場における情報収集

実験室や外国の自然条件の下での使用等によりその特性についてかなりの程度の知見は得られているが、我が国の自然条件の下で生育した場合の特性が科学的見地から明らかでない遺伝子組換え植物の第一種使用等をする場合には、基本的事項第1の1の(1)のイの④に規定する第一種使用等が予定されている環境と類似の環境での使用等について情報収集を行い、当該遺伝子組換え植物の我が国の自然条件の下で生育した場合の特性を明らかにすることとする。

なお、次の①及び②を満たす核酸の複製物が移入されたトウモロコシについては、我が国の自然条件の下で生育した場合の特性が科学的見地から明らかなことから、当該情報収集を行う必要はない。

- ① 査読を受けた論文の公表や関連する国の検討会等での複数の専門家による共通認識等により、作用機序が明らかであると認められるもの
- ② 移入された核酸の複製物により付与される性質が生じさせる可能性のある生物多様性影響の程度が、既に第一種使用規程の承認を受けているトウモロコシの生物多様性影響と同程度又は超えないと認められるもの

また、当該情報収集は、隔離ほ場(遺伝子組換え農作物(農作物である遺伝子組換え植物をいう。以下同じ。))の場合にあつては別表第3に掲げる要件を満たす施設、遺伝子組換え樹木(木本であつて農作物を除いた遺伝子組換え植物をいう。以下同じ。))の場合にあつては別表第6に掲げる要件を満たす施設をいう。)で行うこととする。